

## 第2分科会

第一部では地元で会社を立ち上げた若者・吉川さんとそれを見守ってきた美容師の海保さんの講演がありました。直接利益の出ない活動で出来た繋がりが仕事を運んでくれるというお話や、地域とそこに生きる人々との絆を大切に活動するお二人の確かな信頼関係が印象的でした。

第二部では千葉大生とワーカーズをパネラーに迎え、参加者も加わって、「働く」をテーマにディスカッションが行われました。自分と同年代の学生の、働くことや社会への不安・不信感、実際にW.Coで働く若者のとまどいや意欲、ベテランワーカーズからはW.Coの持つ様々な可能性や価値観などの魅力と、異なった立場からの意見を聞くことができました。自分が関わるきつ



かけになった、W.Coの働き方、間口の広さが、他の若者にとっても大きな魅力になる可能性を感じながら、収入面での課題という切実な問題も再確認しました。

最後は、社会の中で個人が尊重されながら働けるのかを悩む若者を、参加者が自分の経験を通して勇気づける場面もあり、和やかな雰囲気終了となりました。

(企)W.Co紙ふうせん 静野由佳



榎プロシードジャパン代表取締役社長 吉川亮さん  
千葉大学を会場にするに当たって、地域通貨や地域活性化の事業をすすめている、千葉に生まれ千葉で育てて千葉大学大学院を卒業し、千葉で起業した吉川さんが、大学側との橋渡しをしてくださいました。第2分科会の世話役も担ってくださいました。(広報部 橋本)

# ワーカーズ・コレクティブだから出来る たすけあい！地域づくり！働く場所づくり！

2日目は千葉大学を会場に7つの分科会で講演や活発な討議等が行われました。その中でも千葉に関係の深い3つの分科会を紹介します。また、懇親会、園生ツアーの様子もお伝えします。

## 第3分科会

「共に作り 食べ続ける」の冊子を担当された島田さんの、熱い思いのこもった共同事業会議報告から始まり、タイハイ株式会社は生活クラブの醤油を、市場に添加物が氾濫していた時に安心安全な消費材を生み出すチャレンジをして誕生させたことなど、生産者の話は新鮮でこれからも永くこだわりを持って作って頂き、私達も購買力を高めたいと思いました。生活クラブの食材を幼稚園給食にとり入れている北澤先生は、幼子を育てることは楽しい事業、食べ物は子供の体を作るもの、命の素であると強調、未来ある子供達の食の安全確保を強く願われました。北海道で学生寮の食事作りをしている「まどり」（イタリア語でお母さんの意）は、寮生との関わりを、明るい挨拶からと語られ、献立の工夫は必要だが豆類・乾物・根菜など嫌われても迎合しないとは、まさしく家庭の



味にも大切なことと思いました。本当に良い働きをされているのに、少子化と不況で売り上げが落ちているそうです。志は高いワーカーズなのに、赤字経営の職場が多く、いろいろな情報を公開し、お互いに助け合っていくことの必要性を感じました。コメンテーターの河野さんが、今日の味、私の味が良いんですと話されたことを指針に、食の勉強を続け、お客様やワーカーズ間の対話を大切に、安心安全な物を作り、供給し続けたいと思いました。

(企)W.Co菜の花 江口敬子

ユニバーサル就労アンケートの結果報告と分析が、司会進行のW.Coういずの北田恵子さんからありました。ユニバーサル就労について、約半数のW.Coに認知されていないことや、現在働いているワーカーズが歳をとっても働き続ける環境がある一方、障がい者の働く場としてはハードルの高さがあるようでした。

概要説明を社会福祉法人生活クラブ風の村理事長・池田徹さんより、ユニバーサル就労とは？、システムができるまでや、定義、すすめかたや現状の説明がありました。

W.Co Sanの藤堂妙子さんから事例報告があり、実際にユニバーサル就労されている方から職場の写真を見ながら説明があり、ユニバーサル就労とは誰もが働きやすい「ユニバーサルな職場」をつくること、と説明がありました。

業種別でグループになり、ワークシ

## 分科会

- 第1分科会 ひろば運営の課題と今後の展望  
～事業継続をはかるには
- 第2分科会 「働く」って何だ!? ～今、若者と共に考える～
- 第3分科会 共に作り、食べ続ける
- 第4分科会 暮らし方とエネルギーの地産地消
- 第5分科会 国際協同組合年にむけて 社会的資源であるワーカーズ・コレクティブに必要な法制度を考える
- 第6分科会 ワーカーズ・コレクティブがつくる福祉の現場の人づくり
- 第7分科会 ユニバーサル就労のすすめ ～私達はワーカーズ・コレクティブではたらいっています～

この他、3つの自主企画（配送ワーカーズ情報交換／社会保険と税金／原発問題について話そう）が開催され、活発な意見交換がなされ、みなさんパワーアップして元気に帰りました。(広報部 鈴木)

## 第7分科会

ヨップで業務を分解し、あらかじめ明記された人物像にマッチングした働き方を決めていきました。どのグループも本当にその人がいるかのように、どうしたら働くことができるのか、真剣に考えて決めていたのが印象的でした。

ユニバーサル就労を知り、ユニバーサル就労の対象は『働きたいのに働きにくいすべての人』と聞き、まさに自分たちが対象なのだと思いき、さらに働きやすい環境にしていきたいと感じました。

(企)ワーカーズ・結 佐々木香理



## 懇親会

懇親会は、千葉自慢の食事業所のお料理を食べていただくため、持ち込みできる千葉大学旧薬学部講堂での開催でした。ガラとした部屋にテーブルを並べ、「回転木馬」がこの日のために



咲かせてくれた佐倉産の花をかざり、「風車」のリユース食器、「みらい」の力作のポスターなどをセッティング。すっかり華やかな会場に生まれ変わりました。食の事業所は連携し肉料理からデザートまで約20種類のメニューを準備し、幕張産サツマ芋を使用した焼酎もあり千葉の味を堪能していただきました。会中程、千葉大学吹奏楽団の演奏では、腕に覚えのダンス(盆踊り？も)を踊り出す人も加わって、大変盛り上がりました。学生さん達、母親世代のパワーに圧倒されたのではないのでしょうか。団体アピールは、北海道の素敵な映像、東京の合唱、グリーンコープのパワフルな宣

言と、回を重ねるごとにレベルアップしているようです。仲間の元気をもらい、笑い踊りストレスを発散した一夜でした。

会場が遠く、道案内が不十分だったため参加の方々にはご迷惑をかけました。トラブルも笑いにつつんで下さり、大きな心に担当者一同感謝しております。

全国会議千葉副実行委員長 奈良収子



北は北海道、南は鹿児島島のワーカーズから参加のあった、いなげビレッジ虹と風の見学は、2時間ほどで施設内の6団体の各事業所を回るというタイトなスケジュールでした。参加されたみなさん、写真を撮ったり、積極的に質問をされたり、自分の職種に関係なく、熱心に見学されていたことが印象的でした。「立派な施設ですね」というコメントをもらい、私は生協組合員という立場ですが、ワーカーズのメンバーと共にしっかり運営してい

なくてはという責任を感じました。

今回のツアーの前段で、シンポジウムや分科会に参加し、事例発表を聞き、様々なワーカーズが地域になくてはならない事業を担っていることを知りました。そして、このツアーで、ワーカーズのみなさんとほんの数時間ですが実際に交流ができ、ワーカーズには本当にパワフルな方が多いことを実感しました。地域で生き活きと働く皆さんの様子を想像し、あこがれながら、ツアーの案内をさせていただきました。ありがとうございました。

生活クラブ虹の街 京葉ブロック理事長 中井孝子

## 園生ツアー